

【活動報告】

龍谷大学にて特別講義を実施いたしました ～会員会社の若手技術者 3 名が講師として登壇～

一般社団法人関西地質調査業協会は7月8日（水）、龍谷大学深草キャンパスにて、1～2 回生を対象とした特別講義を行いました。次世代への地球科学の普及と業界理解の促進を目的に、今回は会員会社の若手技術者 3 名が講師として登壇。講義の限られた時間の中で、地質調査業の社会的意義や魅力を熱く伝えました。

◆ 映像で伝える地質調査の最前線

講義では、画像や動画を豊富に交えながら、ボーリング調査のプロセスに加え、ドローンや AI を活用した最先端の調査手法を紹介。能登半島地震や液状化現象といった具体的な災害事例や、大学周辺の活断層のリスクにも触れ、私たちが安心して暮らす街やインフラが、地道な地盤調査という「目に見えない土台」に支えられていることを解説しました。

◆ 学生からの高い関心と大きな反響

受講した学生のアンケートからは、若手講師陣の熱意がしっかりと伝わり、大きな刺激を与えられたことがうかがえました。

- ・「文系でも活躍できる業界だと知り、将来の職業の選択肢や視野が広がった」
- ・「最先端技術の導入に驚いた。私たちの安全を支える『縁の下の力持ち』の仕事に魅力を感じた」
- ・「大学での学びが実際の仕事にどう直結しているかが分かり、学習のモチベーションが上がった」

◆ 若手技術者の育成・勉強の機会としても成果

教壇に立った 3 名の若手技術者にとっても、「自らの業務を振り返り、専門外の学生へ分かりやすく伝える」という過程は、業務の重要性を再確認し、表現力を磨く確かな成長の場となりました。

当協会では、今後もこうした教育支援活動を通じて、社会貢献と業界の認知度向上、そして未来を担う若手技術者の育成に努めてまいります。

貴重な機会をいただきました龍谷大学の関係者の皆様、ならびに講師を務めていただいた会員会社の皆様に心より感謝申し上げます。